

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

アヤと過ごすジイジの日記 心のめばえ

<9>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

3歳3カ月 大切なおもちゃ

アヤのお家のすぐ近くに公園があつて、滑り台などの遊具や砂場がある。アヤは砂遊びが好きで、砂場遊びの小道具一式を持って遊びに来る。シヨベル、バケツ、動物やキャラクターの型押し道具、中でも大事にしているのはお船の形のおもちゃである。

ある日のこと、アヤより少し年下の男の子がやつてきて、アヤと一緒に遊びはじめた。バアバが男の子にも気前よくおもちゃを貸してあげたら、アヤもシヨベルや型押しなどを貸してあげていた。

そのうち、砂場遊びのおもちゃをみんな男の子が使い始めた。大事なお船の形のおもちゃを持つて行かれると、とうとう堪忍袋の緒が切れてしまったのか、すごい大声で泣き始めた。

それまで、自分のおもちゃなどを他の子が使つても全然気にしなかったのが、そのことがあつてから、自分のものという意識が芽生えたようで、自分のおもちゃやバッグなどをおいたままどこかに行くときは、「ジイジ持つてね」とか、「見ててね」と言うようになった。

「誰かが持つて行つてしまうからね。」
と言う。

幼児はいろいろな経験を重ねて成長していくのであろうが、自分のものと他人のものの区別もないおらかな心にあるきつかけで自分のものと他人のものを区別する境界線が生じ、おおらかだった世界にしきりが生まれてくる。成長というのは、生きていくために必須のことではあるが、場合によってはちょっとした悲しいこともある。

3歳4カ月 プリン

お子様ランチには必ずデザートが付いている。アイスクリームだったりお菓子だったりするが、その中でも定番はプリンだ。食べず嫌いのアヤはプリンを食べないという。たいいの幼児はこれは大好物で、食事の前に食べようとするから、よく親から叱られているくらいである。

アヤもきつと一口食べたなら大好きになるのは間違いない。その一口をどうやるかだ。

ジイジ「アヤは食べないの？　じゃあ、ジイジがもつて食べてもいいかな？」

アヤ「駄目っ！」

ジイジ「じゃあアヤが食べるの？」

アヤ「食べない。」

ジイジ「ふん。それじゃ、スプーンで少しだけもつてもいい？」

アヤ「うん、いい。」

そこでスプーンで一口だけでももつて食べて、

「ジイジこれ大好きなんだ。」

と言うと、アヤが複雑な表情をして見ている。

「これ、甘くて美味しいんだ。アヤも食べてみる？」

「うん。」

と言って口を開けている。スプーンで一口分だけすくつて口に入れてやると、初めは不審げな顔で口を動かしていたのに、すぐに飲み込んでまた口を開けている。「それみたことか」とジイジは思いながらも、またスプーンですくつて口に入れてやる。そうこうしているうちにとうとうプリンは全部無くなってしまった。これで、アヤの食事の好物リストが一つ増えたね。



連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/>

プロフィール　むたたいぞう　1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修士、
理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に語り継ぎたい湯川秀
樹のこぼれ（丸善出版）、電磁力学（岩波書店）、量子力
学（裳華房）などがある。東広島市在住。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ